

「チームいいなん」の挑戦 ～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～

< 研究開発の背景 >

- ・飯南高校や連携中学校が所在する松阪市の飯南・飯高地域は、近年急激に人口減少が進行
- ・地域住民と学生の交流機会が減少 & 文化・産業等の地域資源の継承が困難
⇒地域の活力低下 & 学校の活力低下
- ・地域を若者で盛り上げようとする活動「道の駅コラボプロジェクト」（有志の課外活動）を開始（H30～ 連携中とも協働）
- ・地域へ飛び出した活動が地域活性化や生徒の成長に有意義 ⇒地域からの期待の高まり
- ・地域を学びの場とした地域課題解決型のキャリア教育の実践を通じて、自ら考え挑戦し、多様な価値観を持つ人々と対話・協働しながら、地域への愛着を持って地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことができる、地域に根ざした人材を育成
- ・地域人材に必要な資質・能力として「対話力・追究力・創造力・発信力」を育成

< 令和元年度の目標、取組状況 >

1. 総合学科の柱に位置付けている3科目の再構築

①「産業社会と人間」（総合学科必修修科目）の再構築（1年）令和元年度の重点

⇒地域を学びの場とした活動を含む内容へとリニューアル

1学期：「地域を知る」 2学期：「地域への理解を掘り下げる」

3学期：「地域課題の解決へ向けた提案づくりや魅力を伝える」

⇒フィールドワーク（1・2学期）を実施し、魅力マップづくり、活動報告発表会、成果報告会を行うなど活動内容や考えを定期的に発信し、生徒間・地域の方と共有

②「キャリアデザイン」（学校設定科目）の再構築（2年）

⇒企業見学やインターンシップのほか、商工会議所と連携した「高校生と地元企業との交流会」を開催

③「いいなんゼミ」（総合的な学習の時間）の再構築（3年）

⇒地域を題材に課題研究に取り組む生徒をゼミ内で協働させながら探究活動を展開
⇒空き家バンクの登録数の増加を目指した「空き家片付けプロジェクト」
地域の魅力を発信する「フォトコンテスト」の企画・実行 等が代表的な取組

2. 4系列の特色を活かした地域貢献のための学習活動の試行

⇒【介護福祉系列】地元企業とコラボした「ふるさと看板プロジェクト」

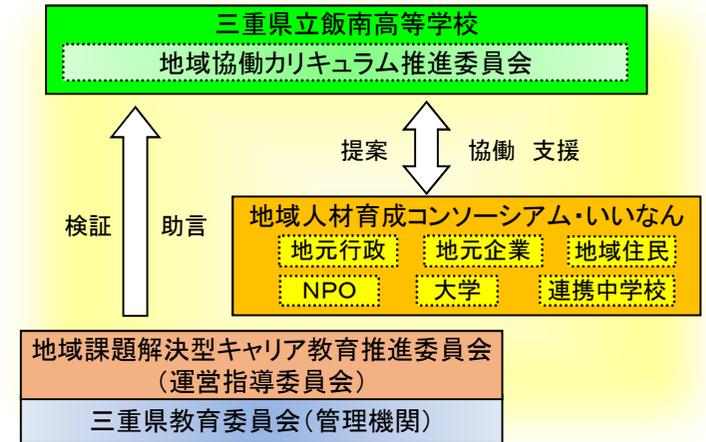
【コンピュータ系列】地域の産業や文化を取り入れた「キャラクターづくり」

【総合進学系列】高大連携授業で「地域課題をデータに基づき考える学び」

3. 探究的な学びを進める授業改善

⇒外部講師を招へいした研修会を実施

< 研究開発の実施体制 >



< 主な成果と課題 >

7月と12月に実施した生徒への自己評価アンケートでは、対話力58.2%→73.7%、追究力59.5%→61.3%、創造力65.8%→64.5%、発信力41.3%→60.0%と上昇傾向にあり、地域を学びの場とした活動を通じて、力が身に付いたと生徒自身が実感できた

1年次「産業社会と人間」では、コンソーシアムの主体的な関わりに支えられ、地域の人的・物的資源を効果的に活用した学びが実現でき、地域への関心を高め、理解を掘り下げることに繋がった

地域の課題解決に重点を置きすぎると、生徒がマイナスイメージを持ってしまう傾向にあったため、地域の良さや魅力に着目し、より良くしようと考えたことで結果的に地域の課題解決につながるような学びを構築する必要がある

2年次「キャリアデザイン」については、1年次「産業社会と人間」での地域を学びの場とした活動を基盤に、学びの連続性を重視し、地域の仕事や生活に焦点を当てた学習を構築していく必要がある

4系列の学習活動は、模索段階ではあったが、地域を素材とした学びの効果的な展開の目途が立ち、令和2年度につながることができた